平成 29 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域 知識情報システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

FD 活動単独での委員会などを開催してはいないが、毎月の学類会議において、カリキュラム検討やアンケート結果に対する意見交換を行っている。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	16	1	
後期	9	2	
年度合計	25	3	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

５　その他取り組みの具体的実施状況

１．知識情報システム演習 II のポスター発表の実施

1 月 30 日（火）Ⅲコマ　学術交流会館多目的ホールにてポスター発表を実施した。質疑応答が偏らないように教員に割り当て、前半・後半の 2 部構成で行い、質疑応答内容をレポートとして提出させた。

２．卒業研究の発表会の実施

2 月 13 日（火）13～17 時　B3 棟において、口頭発表による発表会を実施した。すべての学生が 8 分の発表と 2 分の質疑応答を行った。全体を 2 つのグループに分けてパラレルで実施した。当日、1 名の学生が体調不良で発表できなかったため、2 月 27 日に再発表時間を設け、同様に実施した。

３．知識情報システム学類演習 III の配属方法の変更

配属のミスマッチによる問題を減少させるため、一度配属された学生でも演習 III の単位をとれなかった場合は再配属とするよう変更した。

４．理系基礎科目の変更

機構の要請に従い基礎数学 I・II を履修課程表からはずし、それに伴う変更として、生物・化学入門もはずすと同時に必要単位数を 20 から 18 に変更した。

５．学類専門科目の追加

他学類専門科目のうち重要な科目を学類専門科目として追加すると共に､新任教員の赴任等に伴い学類専門科目を新設した。

平成 29 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域 環境システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

FD 活動は個別の委員会で行わず、学類会議や課程会議において、授業の進め方や学生発表会の開催方法などについて協議を行ってきた。詳細は５に記している。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

５　その他取り組みの具体的実施状況

・環境システム学類の授業の多くは、複数教員の担当によって運営されている。そのことで、学生は多角的な研究の視点を学ぶことができ、教員自身も教育・研究に関する見解を広げることが可能になっている。たとえば、「環境システム学演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生全員による発表会に全教員が参加することで、提示された成果への確認とさらなる示唆が、複数の教員から学生に直接与えられている。また、「環境共生科学入門」「社会共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」「心理療法論」などでも、連続的かつ多様な内容が学べるよう、複数の担当教員が連携しながら授業を進めてきた。

・卒論研究発表会では多数の教員が学生の発表に対して示唆、コメントを行なった。

・社会共生科学課程においては、平成 30 年度に向けて人文社会科学的領域での教育課程の強化について協議を進め、「文化表象」、「政治経済」、「歴史」の領域において、平成 30 年度からの授業科目増強を具体化することができた。

・サステナビリティ科目および他学類専門科目の検討を行った。

・早期卒業の制度を再検討し実施要領等を改正した。

・休学を伴う場合の転課程について再検討し、海外留学への積極的参加を促すよう申し合わせ事項を改訂した。

平成 29 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域　マネジメント学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

- マネジメント学類教育運営委員会が主体となり、マネジメント学類全体の FD 活動を実施している。
- マネジメント学類教育運営委員会では、ピア授業参観の運営、カリキュラムの改善などを行っている。

２　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	51	0	マネジメント学類と経済学研究科においては、学類か研究科どちらかの授業にピア授業参観すれば良いものとしている。
後期	55	3	
年度合計	106	3	

３　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数

４　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
マネジメント学類教育運営委員会	マネジメント学類全体の FD 活動を企画、実施	11	9

５　その他取り組みの具体的実施状況

・　「成績評価ガイドライン」（現代システム科学域として統一）と経済学部「成績評価ガイドライン」を確認し、説明した。

・　学生の視点に立ちシラバスを活用する方策等に関する授業運営課題と教育改善事例の共有

　➢　全学的な教育改革専門委員会におけるシラバスの活用及び時間外学習に関する議論を踏まえ、学部・学類における関連課題を、マネジメント学類及び経済学部教育運営委員会の場を中心に議論した。毎年のように公認会計士試験現役合格が認められていることがその一端を示すように、マネジメント学類及び経済学部では授業運営での成果が見られるが、さらなる授業改善をめざし、進路状況や授業内容などを鑑みた個別の事情を全学的な観点から再検討した。経済学等の社会科学の大人数授業と理工系の少人数の実験との違い、卒業論文の位置づけ、期末筆記試験の実施、教育改革専門委員会アンケートの妥当性や対応などを検討した。

・　授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメントを促進した。

・　卒業論文について検討した。

・　年間の GPC 統計に基づいての、成績評価に関する検討を実施した。

- マネジメント学類のカリキュラムの再検討を実施した。
- マネジメント学類の次年度カリキュラムに沿ったFD活動を検討した。
- マネジメント課程と経済データサイエンス課程の新設にあたって、カリキュラムや教育運営上の問題点等を徹底的に検討した。
- 課程新設に伴う新カリキュラムに沿うように、早期卒業の新実施要領を作成した。
- 国際社会で通用するコミュニケーション能力を身に付けるという観点から、英語の新科目開設について検討した。
- 少人数教育（基礎ゼミナールⅠ・II、外書ゼミナール、学類演習Ⅰ・II）のあり方について検討した。中でも、基礎ゼミナールⅠについては、毎年度、マネジメント学類の全教員が担当し、学生が1年次からマネジメント学類の幅広い専門領域について学ぶことができる機会を提供するようにした。